

秋川流域

2020.6.23

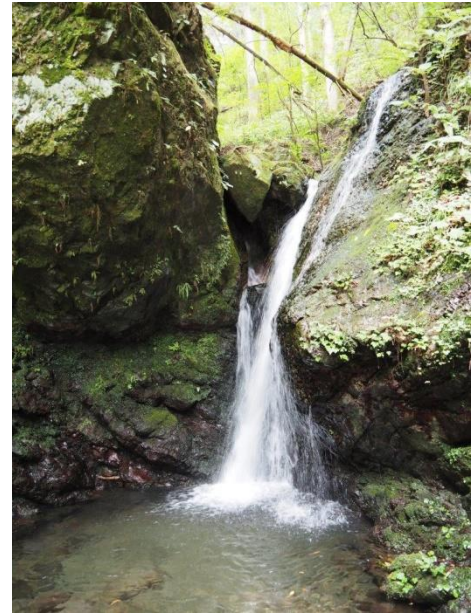
ジオの会通信

VOL. 4

秋川流域のジオサイト④



ソーメン滝



枕状溶岩の滝

養沢・ピリ窪沢の海洋底堆積物

養沢の柿平から養沢鍾乳洞に向かって登っていく沢がピリ窪沢です。この沢沿いに分布する岩石は、秩父帯の川井層に属し、半遠洋性海底での堆積物をそのまま見せてくれています。

本流と養沢鍾乳洞に分かれる沢との出会いにある滝の下部には枕状溶岩があり、上にチャートの岩体が重なっています。さらに上流のソーメン滝は、見事な層状(縞状)チャートを流れ下る美しい滝です。チャートは、放散虫の殻が堆積してできたもので、1cm堆積するのに1万年かかるといわれます。

養沢鍾乳洞などを作っている石灰岩体は、周囲の中生代ジュラ紀に堆積した地層の中に取り込まれた、火山島に形成されたサンゴ礁と考えられ、古生代ペルム紀末(約2.5億年前)に絶滅したフズリナの化石が含まれています。

〈目次〉

秋川流域のジオサイト④ 養沢・ピリ窪沢の海洋底堆積物	1
活動報告 (事務局)	2
小和田橋下流堰下から産出した化石 (内山孝男)	2
会員リレーエッセイ④ (石井弘好)	3
これからの行事予定 (事務局)	4

これまでの行事

思わぬ「コロナ禍」のなかで、秋川流域ジオの会の活動も大きく制限を受けることになりました。全体会が開けない中、事務局会は3密を避けながら、この間の活動を検討してきました。その結果、今年度の7月までのジオツアーや全体会は、残念ながら中止としました。

- ・ 3月17日(火) ジオの会 全体会(新型コロナウイルスの影響により中止)
- ・ 3月31日(火) 事務局会(出張所ロビー)
- ・ 4月5日(日) 小林家ジオツアー下見会(参加5名)
- ・ 4月15日(水) 事務局会(横沢入)
- ・ 4月19日(日) 勝峰山ジオツアー下見会(参加5名)
- ・ 4月21日(火) ジオの会 全体会(中止)
- ・ 5月13日(水) 事務局会(横沢入)
- ・ 5月19日(火) ジオの会 全体会(中止)
- ・ 5月30日(日) 会員向け巡検「ポッチ岩石切場遺跡と岩井断層」(参加10名)
- ・ 6月16日(火) 事務局会(ファインプラザ)・ジオの会 全体会(中止)

小和田橋下流堰下から産出した化石

内山孝男

台風19号後の河川改修に伴って小和田橋下流の堰下から養魚場の手前にかけての秋川河床が掘り下げられ、小庄泥岩部層の岩石がしばらくのあいだ左岸に山積みされていました。ここから多様な化石が産出したため、平らに慣らされてしまうまでの間、このあたりでは化石マニアの人たちが連日石を叩いていました。詳しい検討はこれからのことになりますが、ざっと振り返ってみたいと思います。

このあたりは小庄泥岩部層の下部で、湿地から干潟(写真1)、浅海へと移り変わっていく部分だと考えられますが、それが化石種にどう反映されるかはともかく、積み上げられた山ごとに産出する化石の傾向が違っていたようです。

堰下から東へ順に見ていくと、まず植物片の多いもろい粘土が卓越する一帯がありました。次の山からは巢穴と思われる生痕化石が多産しました。



写真1 1500万年前の干潟面

巢穴の形は多様で、一方が尖っているために「恐竜の牙ではないか」とジオ室に持ち込む人もいましたが恐竜とは時代が違います。

次の一帯からはイシカゲガイ属やマルフミガイ属の2枚貝(写真2)やメイセンタマガイ *Euspira meisensis* とと思われる小型の巻貝(写真3)が出ました。訪れる化石マニアの多くはこれらを狙っていたようです。さらに下流に行くとメタセコイアやコンプトニアを含む葉化石が多くなります。コンプトニアは中新世の示準化石ですが、工事以前は頻繁に見つかるものではありませんでした。



写真2 イシカゲガイ属の二枚貝

最大のニュースは、若いお父さんが息子さんと散歩していたとき拾ったという写真4でしょう。長さ65mmの扁平な円錐型で扁平の両端に小突起が上下に並んでいます。タカアシガニのような大きなカニの脚



写真3 タマガイの類

かつめとする説が今のところ有力なようですが、そうであれば深海ということになり、前述したような環境とは一致しません。しかし産卵期には浅瀬に上がるらしく、五日市町層群からは過去にタカアシガニの化石が記録されています。

この間に何か面白い化石を見つけた方は、ぜひ実物をしばらくジオ室に預けてください。記録をとり、データベースの内容を豊かにしていきたいと思えます。



写真 不明化石

会員のページ リレーエッセイ④ (石井 弘好)

中央構造線への巡検

中央構造線博物館は、南アルプス塩見岳への登山道で、塩川小屋と別ルートで三伏峠に至る鳥倉駐車場への林道入口付近にある。すぐ近くに大西公園があり大西観音菩薩像が立っている。

私は山には興味があるが、地質のことは分からない。それがどうした訳か、都岳連の仲間が企画した巡検に参加して、この中央構造線博物館を訪れたのである。大西山(1,741m)は、マイロナイトという岩石で出来ており、大規模な崖崩れが起きやすい。(次ページ写真参照)

1961(昭和36)年の豪雨で大崩落し、42人の犠牲者を出したという。観音菩薩はその30周年目に建立されたもの。陽の光につるつるに輝く大西山の岩肌を観音菩薩像越しに仰ぎ見ると、これぞ「自然の脅威と人々の歴史」と思ったのである。

中央構造線博物館では、河本さんという学芸員の方が私たちのつたない質問に、時間制限もなく、次々と解説を加えながら説明してくれた。そして最後に、「リニア新幹線のトンネルが南アルプスの真下を貫こうとしている。100年に40cmも隆起する地に人の手が加えられて良いのか？」と我々に問うたのである。今、掘られたトンネルの大量の土砂が、この地(狭隘な沢や崩壊しやすい丘)に積まれていく。自然の掟は、人の成す技をその脅威から見逃してくれるのだろうか。

翌日、大鹿村にある安康露頭、北川露頭など内帯と外帯が見事に分かる露頭を見学、更に伊那市の中央構造線公園では花崗岩源マイロナイトを原石とするカタクレーサイトなどをつぶさに見て回った。

中央構造線は、日本の骨格構造(西南日本の内帯と外帯)を区分する大断層。関東付近では余りハッキリ観察できないが領家変成帯と三波川変成帯を境にして日本列島を貫いている。まさに見所の多い処であった。以来、私は地質にも興味を持って歩くようになった。五日市檜原付近で観察される仏像構造線は、中央構造線の南で秩父帯と四万十帯を分け日本を横断する構造線であるが、興味を持って歩けば五日市付近も極めて見所の多い処なのである。



中央構造線博物館と大西山のマイロナイト（HP「大西山の大崩落」より借用）

これからの行事（詳細は 8月発行予定の「ジオチラシ（20年度後期版）」をご覧ください）

- 7月 4日（日）戸倉城山巡検（会員対象）
- 7月 12日（火）事務局会
- 8月 11日（火）事務局会
- 8月 18日（火）ジオの会 全体会（ファインブラザ） 予定

ジオサイトマップ（改訂・第3版）・「秋川流域 たのしるBOOK」ができました。

秋川流域のジオの面白さを、これらのパンフを活用して普及していきましょう。

このほかにも、5つの研究テーマに合わせた調査会や室内実習、なども行っています。また、ジオツアーに向けた事前研修も行っています。参加については、お問い合わせください。

会員・会費

秋川流域ジオの会では、随時会員を募集しています。秋川流域の大地の豊かさと面白さを学び、伝える活動にぜひご参加ください。現在の会員数は38名です。

☆年会費 2,000円（会計年度 1月～12月）

☆振込口座 西武信用金庫 五日市支店(O24) 普通口座 1173684 秋川流域ジオの会 会計鈴木肇

秋川流域ジオの会通信 vol.4

2020年6月23日発行

発行；秋川流域ジオの会

発行人；内山孝男 編集事務局；青谷知己

連絡先；〒197-0814 あきる野市二宮 1300-97 池田美智子 t e l 080-5470-1588